

第2次総合計画検証結果及び第3次総合計画策定に関する市民アンケート

報告書（案）概要

1. 市民アンケート調査

1.1. 市民アンケートの概要

(1) 調査の目的

第3次南アルプス市総合計画の策定にあたり、市民アンケートを実施し、計画の基礎資料とする。

(2) 調査時期

アンケート期間：令和5年10月6日～令和5年10月20日

(3) 調査対象

南アルプス市在住の18歳以上の市民から無作為抽出

調査対象者数：2,000人

(4) 調査方法

郵送による配付・回収

(5) 回収結果

発送数	2,000人
回収数	867人（うち有効回収数867件）
有効回収率	43.4%

(6) 本報告書中の記号、調査結果の数値等について

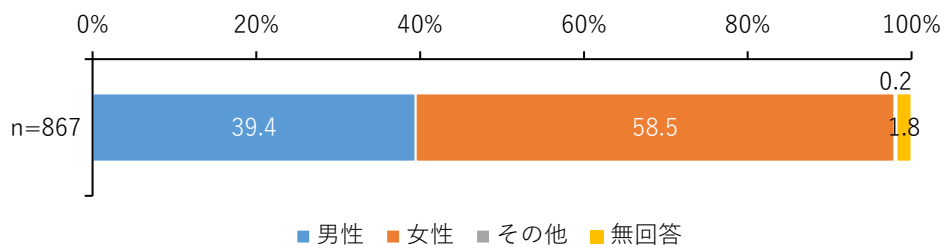
(S A)：単一回答（Single Answer）の略。選択回答は1項目のみ。

(M A)：複数回答（Multi Answer）の略。一部回答を限定しているものもある。また、回答率は100%を超える場合がある。

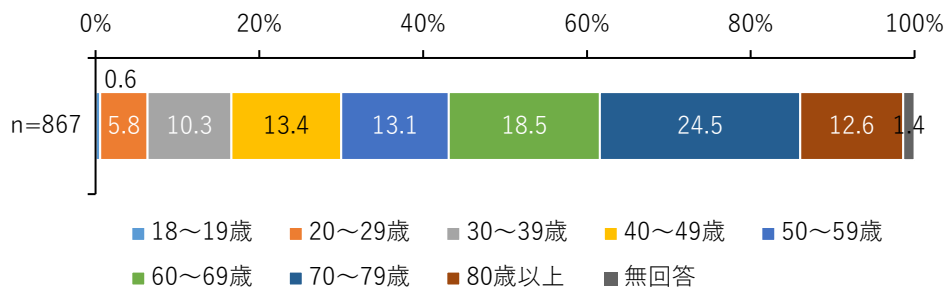
n：回答者数（number）を表す。「n=100」は、回答者数100人ということ。なお、回答項目の構成比は、小数点第二位を四捨五入しているため、各項目の合計が100%にならない場合もある。

(7) 回答者の属性

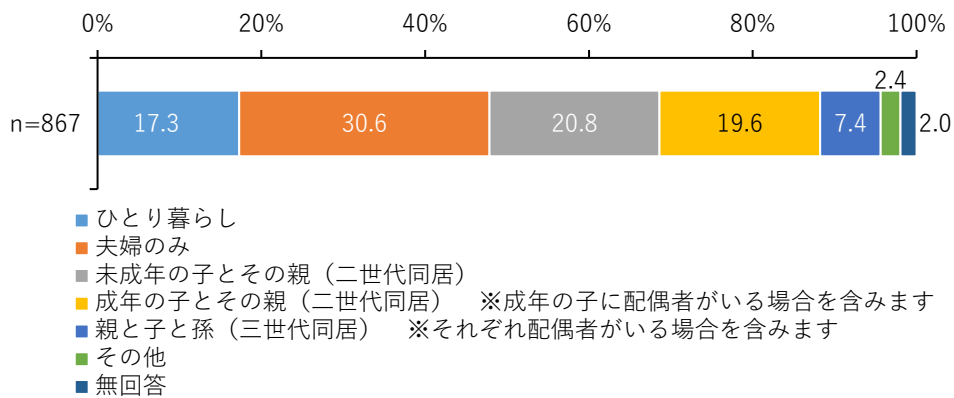
性別 (SA)



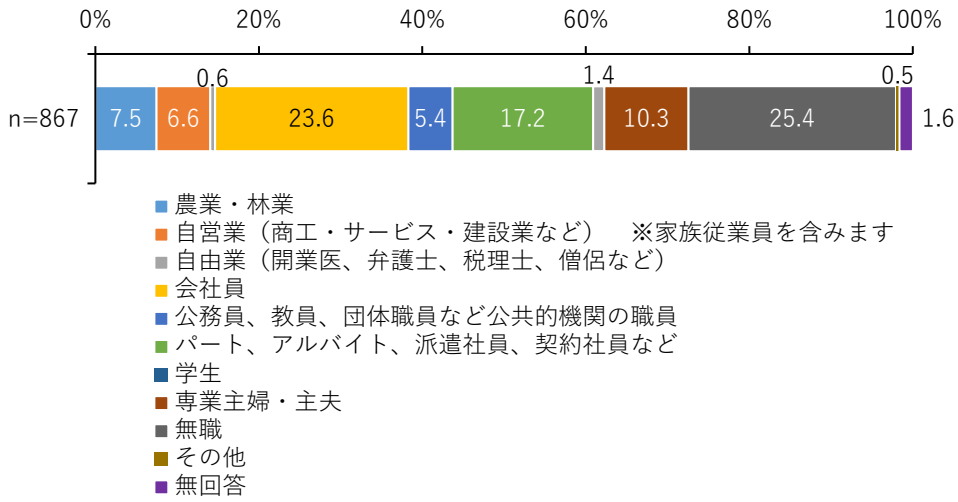
年齢 (令和5年4月1日現在満年齢) (SA)



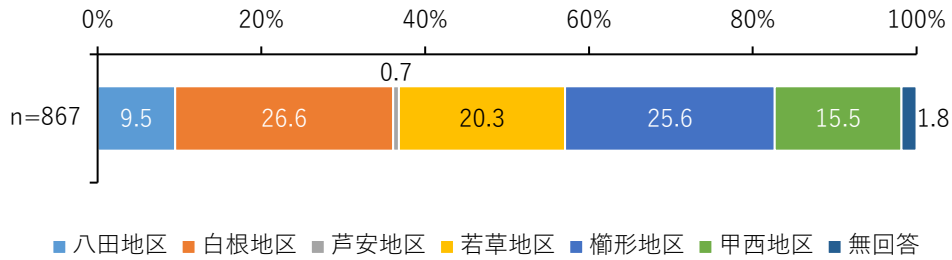
家族構成 (SA)



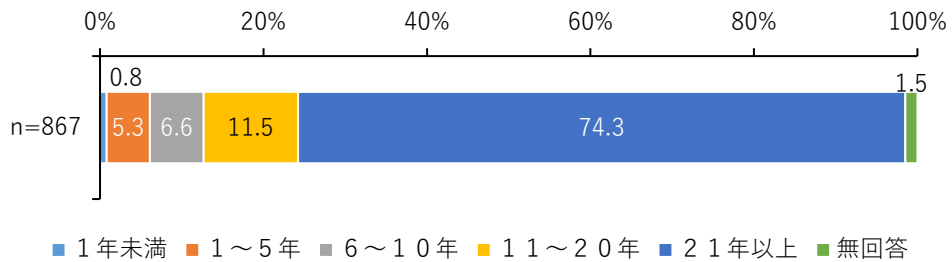
主な職業 (SA)



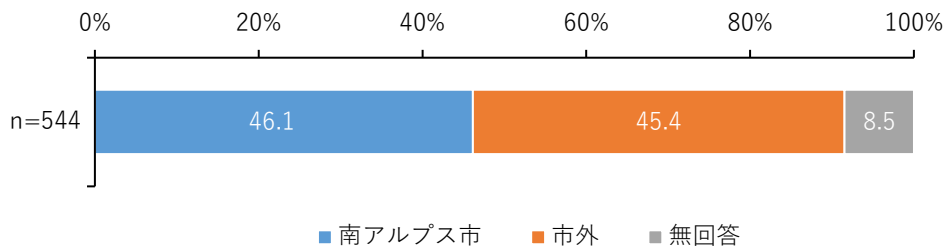
居住地区 (SA)



居住年数 (SA)



通勤地 (通学地) (SA)



1.2. 南アルプス市の現状

(1) 問1：南アルプス市の魅力（1p）

市民の多くは、地域の自然や農産物に魅力を感じている。性別では、男性は産業の発展やインフラ整備、女性は子育てのしやすさや暮らしやすさにそれぞれ魅力を感じている割合が高くなっている。また、子育て世代は子育て支援に、高齢者は福祉や医療に対して魅力を感じていることから、市の施策に対する満足度が高いことがうかがえる。

(2) 問3～5：地域における幸福度・満足度（4p）

本市における幸福度の平均は6.8点で、山梨県の平均の6.3点と比較して高くなっていることから、市民の幸福度は比較的高いと考えられる。性別では女性、年齢では40歳代、家族構成では、未成年の子どもがいる世帯、居住年数では6～10年が、それぞれ幸福度が高くなっている。

地域の暮らしへの満足度については、本市の平均が6.4点に対して山梨県の平均が6.2点であり、本市の満足度が高くなっている。一方で、幸福度と比較すると満足度の方が低い傾向にあることから、市民の幸福度は必ずしも地域への満足度によるものとは限らないと考えられる。

自治会内の人々の幸福度については、「分からない」との回答が4割と最も多く、また本市の平均が5.9点と山梨県の平均である6.2点よりも低い結果となっていることから、自治会内におけるつながりの希薄化を表していると言える。

(3) 問7～11：地域活動・住民参加（9p）

自治会の役割については、ごみ処理や行政サービスの補完的役割に対する認識が特に高くなっている。また、高齢になるにつれて、地域の伝統文化の継承や主体的な地域課題の解決への取り組みに対する意識が高くなる傾向にある。一方で、40～50代は、地域清掃や健康づくり、住民の親睦を深めることに対する意識が低いことから、自治会の役割についての限定的に捉える傾向がみられる。

地域活動については、清掃や防災、高齢者や障がい者の見守りなど、日常生活に密着した活動への参加意向が高く、その傾向は年齢とともに高くなっている。また、20～30代では地域でのイベントや行事、30代の子育て世代では子育て支援への参加意向がみられるなど、年代毎に多様なニーズがあることがうかがえる。

市政への参加については、各種意識調査への回答といった受け身の姿勢や、参加する意志がないとの割合が高く、その中でも特に20～50歳代の参加意思の低さが顕著にみられる。また、今後のまちづくりへの市民参加に必要なことは、活動のリーダーを育成することや、市側もまちづくりに関する情報を積極的に発信していくことともに、情報交換や交流の機会を設けていくことが必要との回答割合が高くなっている。高齢世代では、活動主体の組織化や行政からの情報提供や市民参加の制度の拡充などを求める意見が多くみられる一方で、現役世代では市民がまちづくりに参加する必要はないとの回答が多く、まちづくりへの関心の低さが懸念される。

市政の情報を得る手段には、広報誌や回覧板への依存度が高く、特に高齢になるほどその傾向が強くなっている。一方若年層は、インターネットやSNSにより情報を得るほかに、家族や友人・知人からの口コミにより情報を得る傾向がみられる。

1.3. これからの南アルプス市

(1) 問 16：南アルプス市の将来像（94p）

南アルプス市の将来像として、「自然」や「安全・安心」を重視する割合が突出していることから、これらが多くの市民が描く将来を象徴するキーワードとなると考えられる。特に若い世代において「自然」との回答割合が高い一方で、高齢になるにつれて「健康」や「環境」といった回答割合が高くなっている。

(2) 問 6：10年後の幸福度（98p）

10年後の幸福度 6.3 点であり、現在の幸福度の 6.8 点よりも低くなっていることから、市民の将来に対する不安を反映していると考えられる。特に高齢になるにつれて、または居住年数が長くなるに連れて幸福度が低くなる傾向が強くみられる。一方で、若い世代や居住年数が比較的短い移住者は、10年後の幸福度が今よりも高くなる傾向が見受けられる。このことから、地域に長く暮らす住民と若い世代や移住者において、それぞれが描く将来像やそれに対する期待や不安に違いが生じていると考えられる。

(3) 問 12～14：土地利用（100p）

今後、南アルプス IC 周辺の開発などの土地利用に大きな変化が生じる中で、騒音や治安の悪化を懸念する割合が最も高く、特に子育て世代である 30 代にその傾向が強くみられる。一方で、比較的若い世代を中心に、生活の利便性の向上やそれによる観光客の増加に期待する意見も多くみられる。

今後の土地利用のあり方については、農地を保全し生産機能を維持することや、公園・緑地の拡大や道路網の整備などの利便性と快適性の両方に期待する意見が多くみられる。また、80 代以上では、農地の保全を望む割合が高い一方で、若い世代を中心に業務地の整備を望む意見も多くみられることから、地域の賑わいや雇用機会の増加への期待もあるものと推測される。

これからの農地については、優良な農地以外の宅地化はやむを得ないとの回答を含め、開発を容認する意見は 6 割を超える一方で、宅地化を避けるべきとの意見も 3 割以上となっている。また 50 歳代及び 70 歳以上の高齢世代や甲西地区では、農地の保全を求める意見が多い半面、40 歳代及び 60 歳代では開発を容認する意見が多くなっている。

このように、各世代のニーズや価値観の違いにより今後土地利用に対する意見が分かれる中で、地域の賑わいの創出や若者世代の雇用機会の増加に向けた産業の発展や企業誘致などを推進すると同時に、それによって豊かな自然や暮らしやすさといった地域の魅力を損なうことのないよう、市民の理解を得ながら開発と保全の調和の取れた土地利用を推進することが求められる。

(4) 問 15：子育て（110p）

子育てにおいて大切なこととして、安定した収入が得られることとの回答割合が最も高く、この傾向は若い世代で特に顕著である。このことから、各種子育て支援とあわせて、安定した雇用機会や収入の確保が子育て世代にとって極めて重要であると考えられる。また、子育ての支援内容については、母子保健や保育・託児、また子どもの安全・安心についてのニーズが高くなって

いる。

年代別では、30歳代は産休・育休などの制度が整っていることや子どもの安全・安心のための防犯・防災対策が整っていることの割合がそれぞれ高くなっている。また、二世帯・三世帯同居家族では、公園などが整備されていることや質の高い教育が受けられることの割合が高くなっている。

こうした結果から、子育てにおいては親が安定した収入が得られることを前提に、母子保健や保育・育児、また企業の子育てに関する制度の充実や防犯・防災や公園整備などの地域の安全・安心、さらには質の高い教育などの多様なニーズがみられることから、それらに応えるためにも施策間の連携を図っていくことが重要であると考えられる。

2. 各施策の現状と課題

市民アンケート結果及び第2次南アルプス市総合計画における33施策の実績などから、施策別にみた本市の現状と課題についてまとめる。

2.1. 概要 (25p)

第2次総合計画の施策に対する市民の満足度の平均は全般的に高く、特に安全・安心、環境、福祉、教育などについては平均を上回っている。一方で、雇用や賑わい、公共交通、多様性社会などの満足度はマイナスとなっている。また、満足度の各項目について山梨県の平均と比較した場合、大半の項目で本市の満足度が上回っていることから、本市の施策への満足度も比較的高いと考えられる。

重要度の平均については、全ての施策がプラスに位置づけられることから、引き続き取り組みを維持していくことが求められる。

2.2. 政策1：安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成 (28p)

(1) 地域コミュニティ

- 対象施策：地域コミュニティの充実 (28p)、市政への市民参加の推進 (30p)

自治会への加入に向けた取り組みは積極的に行われているものの、加入世帯は全体の7割前後と横ばいであり、一旦は自治会に加入しても、役員が輪番制であることなどから退会してしまう世帯もみられる。また、自治会活動への参加割合も横ばいであり、住民間の関係性が希薄化していることもあり、活動が地域の活性化につながっているとの実感は薄い。今後、自治会の体制の見直し方針を明確化することが求められる一方で、組の統合などには住民の抵抗感もあり、方針を示す上での難しさもある。

市民活動については、活動の後継者がおらず高齢化に伴い活動が終了してしまうことなどから、活動団体は減少傾向にある。旧町村の小さいコミュニティでは気心が知れているので市民がお互いに協力しやすかったが、合併により自治体の規模が大きくなり関係性や絆が薄まったことで、誰かがやるだろうという人任せの意識も生じているとみられる。

こうしたことから、地域の身近な問題や関心事について市民が自分事として取り組みに参加できる機会を設けることで、自治会活動や市民活動の活性化を図ることが必要である。

(2) 防災・防犯

- 対象施策：防災体制の整備 (32p)、防犯対策の推進 (34p)、交通安全の推進 (36p)

総合防災訓練の参加者数や防災リーダーの配置率は増加傾向にあるものの、若い世代や移住者、外国人など、自治会に入っていない世帯もあることから、近所に誰が住んでいるのか分からなかったり、自治会の中で防災リーダーの周知・認識が十分にされていないことなどの問題が生じて

いる。また、消防団員数は横ばいであるが、その要因として消防団の活動に対する家族、会社、地域の理解やサポートが薄れていることも指摘されている。

犯罪認知件数や交通事故件数は減少傾向にあるものの、地域が発展することにより移住者が増えたことで、見知らぬ人が地域にいても分からないことや、生活道路を利用する車が増加し、不安を感じることもある。また、地域によっては車の交通量が多いにも関わらず、横断歩道が非常に少ないなどの指摘もある。

今後の地域の発展に伴い、交通量の増加や移住者の増加などが想定される中で、市民が安全・安心に暮らすことのできる環境づくりのために、自治会活動や防災・防犯に関する市民活動をどのように継続していくことができるか検討が必要である。

(3) 環境・自然

- 対象施策：自然との共生（38p）、生活環境の保全（40p）

「ユネスコエコパーク」の認知度は横ばいであるが、市民にとっては普段からあまり聞きなれない名称であり、また広河原に行くきっかけや回数が少ないことなども原因として挙げられる。一方で、エコパークの生物多様性をアピールすると山を訪れる人が増えることで、植物が乱獲されたり生態系に影響を及ぼすことも懸念される。こうしたことから、本市において自然と共に生きる「自然との共生」をどのように捉えるべきか改めて考える必要もある。

市民1人1日当たりのごみ排出量は減少傾向にあり、市民の意識が向上してきている。一方で、廃棄物のリサイクル率は低下傾向にあるものの、多くの市民はスーパーなどでリサイクルを行っているためその数字が反映されていないことから、実態と乖離していると推測される。こうしたことから、生活環境についてどのような指標で把握するかが課題となる。

2.3. 政策2：ともに生き支えあうまちの形成（42p）

(1) 多様性・多文化共生

- 対象施策：多様性社会の構築（42p）

男女の差別を感じている市民の割合は2割台ではあるものの、自治会などの地区の役員は男性が中心であることもあり、女性が活躍しやすい雰囲気については否定的な意見がみられる。また、外国からの居住者が増えていく中で、性別に限らず、宗教や文化などの「多様性」をどのように捉えていくのかについて検討していく必要がある。

(2) 福祉・介護

- 対象施策：地域福祉の充実（44p）、福祉総合相談体制の充実（46p）、高齢者福祉の充実（52p）、障がい者福祉の充実（54p）

地域で助け合いが行われていると感じる市民の割合は減少傾向にあり、高齢化が進む中で、地域の行事や避難訓練にも参加せず孤立している人も見られる。一方で、民生委員の充足率100%

と高く熱心に活動しており、高齢者のやりがいや生きがいづくりの一助となっている。しかし、地域において生活面で問題を抱えている様子から心配な人がいても、本人自身が助けを求めなければ対応も難しいといった問題もある。

高齢者福祉サービスは充実していると感じる市民の割合が高い一方で、老後も安心して暮らせるとする市民の割合は横ばいである。老後も介護サービスを極力使わず元気な状態にいるためには、健康増進に加え、高齢者自身が生きがいを持ったり、地域における役割があると思えることが大切であることから、高齢者が地域と関わりながら生きがいを持って健康に暮らしていくことのできるよう、高齢者の社会参加や地域支えあい協議体活動への理解の醸成、自治会等各種団体との連携強化などの取組みを推進することが重要である。

障がい者に対する声かけや見守りをしている市民の割合は横ばいであり、周知の不足により地域への理解が浸透していない現状がうかがえる。また、障害者相談支援センターと福祉しごとサポートの連携により、就労相談件数が増加傾向にあることから、引き続き障がい者の一般就労への移行に向けた就労移行支援及び就労定着支援事業所の充実を図ることが重要である。

(3) 子ども・子育て

- 対象施策：保育・幼児教育の充実（48p）、子育て支援の充実（50p）、母子保健の充実（56p）

子育てしやすいまちであり市民の満足度も比較的高く、市の保育は手厚くとても良い印象を持っている保護者が多いとみられる。保育の充実は重要である一方で、保育が必要なのは夫婦ともに働かなければならない経済状況も背景にあることから、それが子どもにとって本当に良いことなのかを考える必要もある。子育て支援の充実とあわせて、子育て世代の雇用の確保や賃金アップ、さらには親子が共にいる時間を十分に確保することも考える必要がある。

保育園に子どもを通わせている保護者は、保育士に子育ての相談ができるが、そうでない母親は相談機会に限られる。特に悩みを抱えたまま子育てをする保護者に対する相談を充実することが重要である。乳幼児健診は相談や母親同士の交流の機会にはなるものの、子どもの発育の違いにより母親が不安に感じることも懸念されることから、きめ細かなフォローも必要である。

また、乳幼児から保育所・小学校・中学校・高校まで途切れのない支援を行うためには、施策間の連携や各機関との連携を強化することも重要である。

(4) 医療、健康づくり

- 対象施策：健康づくりの推進（58p）、地域医療の充実（60p）

新型コロナの影響により健康づくりを行っている市民の割合や特定健診の受診率などの指標は目標を下回っているものの横ばいであることから、市民の健康意識は一定程度維持されているものと考えられる。一方で、市などによるフレイル予防を始めとした各種講座の存在は知っているが、周りで参加している人はあまりいないのが市民の実感でもあることから、楽しみながら気軽に身体を動かすことのできる機会を設けることも必要である。

「健康リーグ」の認知度は1割前後と低いものの、スマートフォンを使って歩数に応じたポイ

ントが得られる取り組みなど、他の民間サービスを使っている人も一定程度いるものと推測される。

医療については、市民からは掛かりつけ医としての地域の医療機関は比較的多い印象があり、安心して医療が受けられると感じている市民の割合も5割を超えている。しかしながら、地区の中には、遠方の大規模な医療機関に掛かるための移動手段が問題となることもあることから、今後、移動支援や在宅医療の充実などの検討も必要であると考えられる。

2.4. 政策3：うらおいと活力のある快適なまちの形成（62p）

(1) 産業・観光

- 対象施策：農林業の振興（62p）、商工業の振興（64p）、企業誘致の推進（66p）、観光の振興（68p）

農家の高齢化が進み、後継者の不足が課題となる一方で、収益性の高い農作物を栽培することで後継者を確保している農家も見られる中、農家収入は横ばいとなっている。また、荒廃農地の比率は緩やかに増加傾向にあることから、南アルプス市の主幹産業である農業を今後も維持していくために、高齢の農家と若者とのマッチングや、その後の農業指導などの支援体制の構築が重要となる。

買い物に便利であると感じる市民の割合は横ばいであるものの、身近な小規模小売店舗が減少することにより、自家用車での移動が困難な高齢住民にとって日常の買い物に困難が生じていることから、小規模事業者の事業継続のための支援や、将来的には移動販売なども検討する必要がある。

市内で適切な収入が得られている機会があることややりたい仕事を見つけやすいことについて、市民は否定的に捉える傾向がみられる。このことから、勤め先となる企業を確保するために、開発による企業誘致を行っていく必要がある。

観光については、今後大型商業施設への来客者も見込む中で、これまでの自然や果樹に加え、歴史や文化などの地域資源を活用することで市内での滞在時間を増やし、地域経済の活性化につなげることが重要である。

(2) 都市整備・まちづくり

- 対象施策：道路・交通基盤の整備（70p）、都市空間の整備（72p）、2.5.8. 上下水道の整備（76p）

中部横断道が完成するなど道路網の整備は進んでいると感じている市民が多くなっている。コミュニティバスの利用者数は増加しているものの、公共交通機関で生活に必要な移動ができると感じている市民の割合は減少傾向にあり、高齢化により車の運転ができなくなった際の移動の確保が課題となる。また、大型店舗の出店などにより市内の交通量の増加も懸念される中で、安全な歩行空間の整備なども必要となると考えられる。

上下水道については、水道水がおいしいと感じる市民の割合も高く、また下水道施設の整備も

順次進められており、整備率も向上している。

(3) 移住・定住

- 移住・定住人口の拡大 (74p)

本市の雰囲気は心地よく愛着を持っていると感じる市民の割合が高く、本市に住み続けたいとの回答も7割程度で推移している。また、子育て支援をはじめとした施策により県内外から本市への移住者も増加傾向にある。こうしたことを背景に、移住を検討する際に住みやすいまちとして選択肢となるよう、本市の魅力に関する情報発信を強化することが重要である。

2.5. 政策4：心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成 (78p)

(1) 生涯学習・文化・スポーツ

- 対象施策：生涯学習の推進 (78p)、歴史・伝統文化の振興 (80p)

生涯学習やスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は3割程度にとどまっている。その理由として、市民が身近に生涯学習などの活動を始めるきっかけや学びたいことが学べる機会が限られていることが指摘されている。また、特色を持った図書館づくりなどの取り組みが市民に十分知られていないという状況もみられる。したがって、市民への取り組みの周知を強化することによる学びのきっかけづくりや、図書館などと連携しながら主体的に学びを深めていく仕組みづくりなどが求められる。

文化財を活用した出前授業などを通じて、子どもたちに地域の歴史・文化が浸透している。一方で、市民が歴史・文化に触れる機会は減少していることから、様々なイベント等を通じて市民が文化財に興味や関心を持つ機会を設けていくことも重要である。

(2) 学校教育・社会教育 (82・84・86p)

- 対象施策：学校教育の充実 (82p)、学校施設の整備 (84p)、青少年健全育成の推進 (86p)

コロナ禍に伴う運動や活動の制限により、スポーツへの関心の低下や子ども同士の話し合いの機会が減少傾向にある。また、学校教育においてもICTを活用した新たな教育や実践的な学び、美術や音楽などの専門的な学びの機会が求められる中で、教員だけではなく地域の人材を活用した開かれた学校づくりや小中一貫教育やコミュニティスクールなどの特色のある学びの場づくりを推進することが重要である。

学校施設については、計画に則り整備や改修が進められており、教育活動に適していると感じている保護者の割合も9割を超えている。今後は、障がいを持つ子どもなど様々な状況に応じ、施設の受け入れ体制の検討を進めていく必要がある。また、地域の防災拠点として活用するなど、地域における学校施設の役割についても検討していくことも重要である。

青少年の健全育成のための教育が行われていると感じる市民の割合は3割程度で横ばいであり、青少年と地域とのつながりも希薄化する中で、現在の活動が青少年にとって意義のあるものなの

かといった疑問や行き詰まりも指摘されている。こうしたことから、青少年の健全育成に向けた活動の意義や内容について改めて検討することも必要である。

2.6. 政策5：未来をひらく経営型行政運営の形成（88p）

(1) 財政・行政サービス・職員の資質

- 対象施策：健全な財政の維持（88p）、時代に合った行政サービスの実現（90p）、職員資質の向上（92p）

実質公債費比率及び将来負担比率は減少傾向にあり、健全な財政状況を維持しているものの、予算が適切に使われていると感じている市民は必ずしも多くないのが現状である。このことから、さらなる適切な予算執行とあわせて、財政に関する市民への情報発信をきめ細かく行うことも必要である。

市の業務が効率的に行われている市民の割合は増加傾向にあり、行政サービスのデジタル化が進んでいることもその理由のひとつとして考えられる。一方で、高齢者などは紙による手続きの方が分かりやすいと感じていることや、デジタル化による情報漏洩などのリスクも懸念される。また、外国人の住民が増加する中で、行政書類を理解するのが難しいこともあることから、安全性に十分配慮しつつデジタル技術を有効に活用しながら、誰にでも分かりやすく使いやすい行政サービスの提供を推進することが重要である。

市職員に対する信頼度については、4割台で推移している。地域のことを真剣に考えているかどうかは、個人差が大きいとの指摘もあることから、職員全員が高い意識を持ち業務を行うことのできる環境を整備することも重要である。

3. 参考資料：市民アンケート調査票

第3次南アルプス市総合計画の策定に関する 市民アンケートへのご協力をお願い

令和5年10月6日

南アルプス市役所 総合政策部 政策推進課

- ◎ 南アルプス市では、市政の基本指針であります「第2次南アルプス市総合計画」に基づいて、暮らしやすい南アルプス市をつくるためのさまざまな施策を推進しています。
- ◎ この計画の期間が令和6年度に終了するため、市民の皆様のご意向を踏まえながら、新たな総合計画づくりに取り組みたいと考えております。
- ◎ このアンケート調査では、日ごろ市民の皆様が感じておられることをおたずねします。結果については、新しい計画の中に積極的に役立てていきたいと考えております。
- ◎ 今回、調査にご協力いただく方は、市内にお住まいの18歳以上の方から2,000人を、無作為に選ばせていただきました。
- ◎ ご回答の内容は、統計的に処理し、個別の回答者や回答内容が明らかになることはありません。また、個別の調査結果を他の目的に使用することも、一切ございません。
- ◎ ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、ご協力のほどお願い申し上げます。



ご記入にあたってのお願い

1. ご回答は、封筒のあて名の方ご本人が記入してください。
ご本人が何らかの理由で記入できないときは、ご本人のお考えを、ご家族の方が代わってご記入ください。
2. アンケート調査票には、あてはまる番号に○印を付けるものと、具体的な内容を記述していただくものがあります。
設問にしたがって、鉛筆か、黒または青のボールペンではっきりと記入してください。
3. ご回答いただいた調査票は、そのまま同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、
令和5年10月20日（金）までに 投函してください。
4. 本アンケート調査の趣旨や記入方法などについてご不明の点がございましたら、
お手数をおかけしますが、下記までご連絡ください。

お問い合わせ先

南アルプス市役所 総合政策部 政策推進課 政策推進担当（担当：樋泉・中込・塩澤）

〒400-0395 南アルプス市小笠原 376

電話 055-282-0149/FAX 055-282-1112

■ はじめに、南アルプス市の魅力についておうかがいします。

【南アルプス市の魅力】

問1 あなたは、南アルプス市が誇れる魅力は何だと思えますか。次の中から4つまで選んでください。(○は4つ以内)

- 1 通勤・通学に便利
- 2 日常の買い物に便利
- 3 住宅が増え、街としての活気がある
- 4 南アルプス連峰など豊かな自然に恵まれている
- 5 市内全域がユネスコエコパークに登録されている
- 6 果樹園など良好な景観が形成されている
- 7 伝統工芸や地場産業が息づいている
- 8 伝統芸能や祭事が受けつがれている
- 9 貴重な文化財が残り歴史の積み重ねがある
- 10 道路網が発達している
- 11 果樹などの農産物が豊富である
- 12 企業誘致が進み、産業が活発である
- 13 福祉や医療が充実している
- 14 子育て支援が充実している
- 15 文化やスポーツ、学びの活動環境が充実している
- 16 市民や団体がまちづくりに積極的に参加している
- 17 教育環境が整っている
- 18 年齢、性別、国籍などに関わらず、誰もが暮らしやすい地域である
- 19 その他（具体的に記入してください）

■ 次に、地域における満足度・重要度、幸福度についておうかがいします。

【地域における満足度・重要度】

問2 南アルプス市の暮らしについて、あなたはどの程度満足していますか、また、どの程度重要だと感じていますか。以下の全ての設問項目について、①満足度（5段階）、②重要度（3段階）のうち、それぞれ当てはまるものに○をご記入ください（○は各設問項目につき、①満足度と②重要度にそれぞれ1つ）。

設問項目 以下の全ての項目について 満足度・重要度のそれぞれ1つに○印	①満足度 あてはまる番号1つに ○印					⇒	②重要度 あてはまる番号1つ に○印		
	非常に あてはまる	ある 程度あて はまる	どちら とも言え ない	あまり あてはま らない	全く あてはま らない		重要 である	どちら ともい えない	重要 でない
	1	2	3	4	5		1	2	3
(記入例) (●) ○○○○の豊かさ	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(●) ○○○○のきれいさ	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(1) 私は、同じ区や組に住む人たちを信頼している	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(2) 南アルプス市では、まちづくりの取り組みへの参加が進んでいる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(3) 南アルプス市では、防災対策がしっかりしている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(4) 南アルプス市は、防犯対策（交番・街灯・住民の見守り等）が整い、治安がよい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(5) 南アルプス市では、歩道や信号が整備されていて安心である	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(6) 南アルプス市には、自慢できる自然景観がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(7) 南アルプス市では、身近に自然を感じることができる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(8) 南アルプス市の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(9) 南アルプス市では、リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(10) 南アルプス市には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(11) 南アルプス市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3

①満足度 ②重要度 設問項目 以下の全ての項目について 満足度・重要度のそれぞれ1つに○印	①満足度 あてはまる番号1つに ○印					⇒	②重要度 あてはまる番号1つ に○印		
	非常に あてはまる	ある 程度あてはまる	どちらとも 言えない	あまりあてはまる ない	全くあてはまる ない		重要である	どちらとも いえない	重要でない
(12) 南アルプス市には、困ったときに相談できる人が身近にいる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(13) 私は、区や租の人が困っていたら手助けをする	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(14) 南アルプス市には、生活に困ったときに相談する行政の窓口がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(15) 南アルプス市では、安心して子どもを預けられる環境がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(16) 南アルプス市では、子育て支援・補助が手厚い	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(17) 南アルプス市では、子どもたちがいきいきと暮らせる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(18) 南アルプス市では、高齢者の介護・福祉施設のサービスが受けやすい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(19) 南アルプス市では、障がい者の支援サービスが受けやすい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(20) 南アルプス市には、安心して妊娠・出産・育児ができる環境がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(21) 南アルプス市では、健康づくりがしやすい環境が整っている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(22) 南アルプス市は、医療機関が充実している	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(23) 南アルプス市では、農業活動が積極的に行われている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(24) 南アルプス市では、やりたい仕事を見つけやすい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(25) 南アルプス市は、日常の買い物にまったく不便がない	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(26) 南アルプス市では、適切な収入を得るための機会がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(27) 南アルプス市では、新たなことに挑戦・成長する機会がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(28) 南アルプス市には、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(29) 南アルプス市には、観光資源が豊富で誇らしい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(30) 南アルプス市では、公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3

①満足度 ②重要度 設問項目 以下の全ての項目について 満足度・重要度のそれぞれ1つに○印	①満足度 あてはまる番号1つに ○印					⇒	②重要度 あてはまる番号1つ に○印		
	非常に あてはまる	ある 程度あて はまる	どちらとも 言えない	あまりあて はまらない	全くあて はまらない		重要 である	どちらとも いえない	重要 でない
(31) 南アルプス市は、道路網が十分に整備されている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(32) 南アルプス市には、まちなか、公園、川沿い等で心地よく歩ける場所がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(33) 私は、南アルプス市に対して愛着を持っている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(34) 南アルプス市の雰囲気は、自分にとって心地よい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(35) 南アルプス市の水道の水がおいしいと感じる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(36) 南アルプス市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(37) 南アルプス市では、教育環境(小中高校)が整っている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(38) 南アルプス市では、通学しやすい場所に学校がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(39) 南アルプス市では、学びたいことを学べる機会がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(40) 南アルプス市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(41) 南アルプス市には、青少年が健やかに成長できる環境がある	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(42) 南アルプス市では、予算が適切に使われている	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(43) 南アルプス市では、行政サービスのデジタル化が進んでいる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(44) 南アルプス市の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3
(45) 南アルプス市の職員は信頼できる	1	2	3	4	5	⇒	1	2	3

【地域における幸福度】

問3 あなたは、現在どの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください（○は1つ）。

とても不幸 ←————→ とても幸せ

0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

問4 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。「とても不満足」を0点、「とても満足」を10点として、ご記入ください（○は1つ）。

とても不満足 ←————→ とても満足

0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

問5 あなたの自治会の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください（分からない場合は「分からない」を選択してください、○は1つ）。

とても不満足 ←————→ とても満足

0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	分からない
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-------

問6 今から10年後、あなたはどの程度幸せだと思いますか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください（○は1つ）。

とても不満足 ←————→ とても満足

0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

■ 次に、地域活動や市政への住民参加についておうかがいします。

【自治会の役割】

問7 あなたは、地域の自治会組織（区や組など）の役割として大切なことは何だと思えますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- 1 地域の共有財産や集会施設などの維持管理をおこなう
- 2 地域の清掃や健康づくりなどの活動の中心となる
- 3 お祭りやスポーツ大会などの地域行事をおこない、住民の親睦を深める
- 4 地域の伝統芸能や祭事などの文化を守り、次の世代に引きつぐ
- 5 ごみ処理や子育て支援などの行政サービスが地域でスムーズに提供されるよう協力する
- 6 市役所からのお知らせなど、市政情報を住民に伝える
- 7 住民の意見や要望をとりまとめ、市役所や市議会に働きかける
- 8 地域の課題や問題点を、住民みずからが解決するように取り組む
- 9 自主防災組織として住民の安全を守る
- 10 大切な役割は担っていない
- 11 その他（具体的に記入してください）

【地域活動への参加意向】

問8 あなたは、地域でおこなわれる次のような活動に参加してもよいと思えますか。機会があれば参加してみたいもの（これからも続けていきたいもの）をすべて選んでください。
（○はいくつでも）

- 1 地域で行う運動会やスポーツ大会、お祭りなどの行事
- 2 地域の清掃や美化活動
- 3 災害時に備えた防災訓練や防災講習会などの地域支援活動
- 4 高齢者や障害者の見守り・手助け
- 5 通学・帰宅時の見守りや道路横断補助など、子どもの安全確保
- 6 子育て世帯への情報提供など、地域ぐるみでの子育て支援
- 7 リサイクルや自然保護などの環境活動
- 8 文化財保護や道路・公園など地域の公共設備の保全
- 9 国際交流や国際貢献活動
- 10 参加してもよいと思うものはない
- 11 その他（具体的に記入してください）

【市政への参加意向】

問9 あなたは、今後機会があれば、どのような手段を通じて市政に参加したいと思いますか。

次の中からあてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- 1 市が実施する各種の意識調査への回答
- 2 市が公募する審議会などの委員
- 3 市政への感想などを市に報告するモニター制度
- 4 市長への手紙などによる意見の提出・提案制度
- 5 市長と市民との懇談会や対話集会への参加
- 6 市民主催のまちづくり会議などの市民活動
- 7 事業実施のために組織される実行委員会のメンバー
- 8 事業実施に必要な労力を提供するボランティア
- 9 市政に参加する意思はない
- 10 その他(具体的に記入してください))

【まちづくりへの市民参加に必要なこと】

問10 あなたは、市民がまちづくりに参加しやすくなるためには、何が必要だと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。(○は3つ以内)

- 1 市民参加の必要性や重要性についての意識啓発が行われること
- 2 活動のリーダーとなる人材を育成すること
- 3 市民同士の情報交換の場や交流の機会が充実すること
- 4 活動の主体となる団体やサークルなどが数多く組織されること
- 5 地域に活動拠点となる施設が整うこと
- 6 活動に必要な機材の貸し出しや、活動費への経済的支援が得られること
- 7 市の職員がまちづくりについての情報・専門知識を積極的に提供すること
- 8 市の計画策定や事業実施にあたり、市民参加の機会を制度的に拡充すること
- 9 市民がまちづくりに参加する必要はない
- 10 その他(具体的に記入してください))

【市政情報を得る手段】

問11 あなたは、南アルプス市の市政に関する情報をどのような手段で得ていますか。主に利

用するものを次の中から3つまで選んでください。(○は3つ以内)

- | | |
|--------------------|--|
| 1 広報紙(広報南アルプス) | 2 市議会だより |
| 3 インターネット(市ホームページ) | 4 回覧板 |
| 5 テレビ番組(CATV行政放送) | 6 市の掲示板 |
| 7 新聞 | 8 新聞折り込みチラシ |
| 9 市議会議員 | 10 自治会長・自治会の会合 |
| 11 市の職員 | 12 家族・友人・知人 |
| 13 無尽会 | 14 SNS(LINE、Instagram、X*旧ツイッター、Facebook) |
| 15 特に得ていない | 16 その他() |

■ 次に、これからの南アルプス市についておうかがいします。

【開発による影響】

問12 南アルプス IC 周辺は、南側エリアには2024年にコストコが出店予定であり、北側エリアも開発が予定されています。また、今後リニア中央新幹線の品川～名古屋間の開通が予定されています。あなたは、これらの開発により本市にどのような影響があると思いますか。次の中から3つまで選んでください（○は3つ以内）。

- 1 市民の生活利便性の向上（買い物、移動など）
- 2 利便性の向上による南アルプス市内への観光客の増加
- 3 利便性の向上による南アルプス市への移住者（転入者）の増加
- 4 利便性の向上による南アルプス市への企業立地の促進
- 5 都市化が進行することによる南アルプス市の活性化、税収の増加
- 6 都市化が進行することによる混雑・騒音・治安の悪化
- 7 都市化が進行することによる自然・農地の減少
- 8 ストロー現象*による転出者の増加（人口の減少）
- 9 その他（具体的に記入してください）

※ 「ストロー現象」とは、交通網が整備されることによって、働く人や買い物客が大都市に流れ、地方都市の人口や産業が大都市へ吸い取られる現象をいいます。

【これからの土地利用のあり方】

問13 あなたは、これからの南アルプス市の土地利用のあり方について、どのような方向性で取り組んでいくことが望ましいと思いますか。次の中から2つまで選んでください（○は2つ以内）。

- 1 農地を保全し、農業生産の機能が発揮できるよう努める
- 2 公園や緑地を拡大し、生活環境の向上を図る
- 3 住宅地の拡大整備を進める
- 4 道路用地を確保し、生活道路や幹線道路網の整備を進める
- 5 商業、サービス業などの業務地の整備を進める
- 6 工業用地を確保・整備し、企業誘致を推進する
- 7 なるべく現状のままで維持に努める
- 8 その他（具体的に記入してください）

【これからの農地の方向性】

問14 農業者の高齢化や後継者不足により、農地の遊休化が進んでいます。市内の農地のこれからの方向性について、次の中からあなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください（○は1つだけ）。

- 1 現在の農地は、できるだけ守り、残していくべきである
- 2 農業生産がおこなわれない遊休農地であっても、宅地化は避けるべきである
- 3 優良な農地は保全するが、それ以外の農地は生活の利便性のため宅地化されてもやむを得ない
- 4 優良な農地を含め、周辺道路の整備等により開発の可能性がある農地については、宅地化して住宅や業務用地などに利用することもやむを得ない
- 5 その他（具体的に記入してください）

【これからの子育てに大切なこと】

問15 南アルプス市では、市の未来を担う子どもを育てるべく、子育て施策に力を入れていきます。これからの子育てにおいて、あなたはどのようなことが大切であると思いますか。次の中から3つまで選んでください（○は3つ以内）。

- 1 気軽に美しい自然に触れ合える環境で子育てができること
- 2 子どもが伸び伸びと遊べる公園などが整備されていること
- 3 子育てに必要な安定した収入が得られること
- 4 勤務先の出産や子育てに関する制度（産休・育休など）が整っていること
- 5 安心して出産や母子の医療・保健サービスが受けられる環境が整っていること
- 6 必要なときに子どもを預けられる場所があること（保育園、託児所など）
- 7 子どもの個性を伸ばせる、質の高い教育が受けられること
- 8 子育てに困ったときに手助けしてくれる地域のコミュニティがあること
- 9 子どもの安全・安心のため、防犯・防災対策が整っていること
- 10 子どもの送迎などにおける交通手段が整っていること
- 11 分からない
- 12 その他（具体的に記入してください）

【将来像(キーワード)】

問16 あなたが望む南アルプス市の将来像をことばで表すと、次のうちどれになりますか。あなたのイメージに近いものを次の中から3つまで選んでください。（○は3つ以内）

- | | | | |
|----------|-------|---------|--------|
| 1 自然 | 2 開発 | 3 伝統 | 4 先進 |
| 5 調和 | 6 個性 | 7 やすらぎ | 8 にぎやか |
| 9 果樹園・田園 | 10 洗練 | 11 国際 | 12 快適 |
| 13 文化 | 14 環境 | 15 協働* | 16 健康 |
| 17 安全・安心 | 18 交流 | 19 その他（ | ） |

※ 「協働」とは、市民、行政、企業・団体等が、まちづくりの目標を共有し、ともに力をあわせて活動しているすがたをいいます。

■ 最後に、あなたご自身のことについておうかがいします。

※ 統計をまとめるうえで大切な項目です。
すべての項目について、いずれか1つを選んでください。

① あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性 3 その他

② あなたの年齢をお答えください。(令和5年4月1日現在の満年齢)

- 1 18～19歳 2 20～29歳 3 30～39歳 4 40～49歳
5 50～59歳 6 60～69歳 7 70～79歳 8 80歳以上

③ あなたの家族構成は次のうちどれですか。

- 1 ひとり暮らし
2 夫婦のみ
3 未成年の子とその親(二世帯同居)
4 成年の子とその親(二世帯同居) ※成年の子に配偶者がいる場合を含みます
5 親と子と孫(三世帯同居) ※それぞれ配偶者がいる場合を含みます
6 その他(具体的に)

④ あなたの主な職業は次のうちどれですか。

- 1 農業・林業
2 自営業(商工・サービス・建設業など) ※家族従業員を含みます
3 自由業(開業医、弁護士、税理士、僧侶など)
4 会社員
5 公務員、教員、団体職員など公共的機関の職員
6 パート、アルバイト、派遣社員、契約社員など
7 学生
8 専業主婦・主夫
9 無職
10 その他(具体的に)

⑤ あなたのお住まいはどの地域ですか。

- 1 八田地区 2 白根地区 3 芦安地区
4 若草地区 5 櫛形地区 6 甲西地区

⑥ あなたは、南アルプス市(合併前の旧町村を通算してください)にお住まいになって何年ですか。

- 1 1年未満 2 1～5年 3 6～10年
4 11～20年 5 21年以上

⑦ あなたの通勤地(通学地)はどちらですか。(専業主婦・主夫、無職の方は記入しないでください。)

- 1 南アルプス市内 2 市外

■ 総合計画についてのご意見やご要望などについて(自由回答欄)

ご意見をいただけるようでしたら、下の欄にご自由に記入してください。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。